

第2 だれもが健康に暮らせるまち

施策 4

高齢者が健康に、
生きがいを持って暮らせるよう支援します

施策の展開

健康づくりの推進

高齢者がいつまでも住み慣れた地域で健康に自立した生活を送ることができるよう、運動習慣の定着や食生活の改善、お口の健康などの介護予防の取り組みについて、普及啓発を進めます。

また、地域で介護予防に取り組む自主グループの立ち上げや、その継続的な取り組みの実施を支援します。

生きがいつくりの支援

高齢者が地域でいきいきと暮らすことができるよう、老人クラブや高齢者サロンの活動支援や、区民がつながる場の提供などを通じて、生きがいつくりや仲間づくりを支援します。また、高齢者一人ひとりが役割をもって地域で活動できるよう、意欲のある人と活躍の場をつなぐ取り組みを進めます。

介護予防の取り組みや活躍の場について、必要としている人に効果的に伝えることができるよう情報発信を進めます。

	成果指標	現状値	目標値（令和5年度）
1	自分が健康だと思う高齢者の割合	72.9%	75%
2	高齢者サロンの認知度	32.6%	36%
3	生きがいや楽しみを持って生活していると感じる高齢者の割合	71.4%	73%



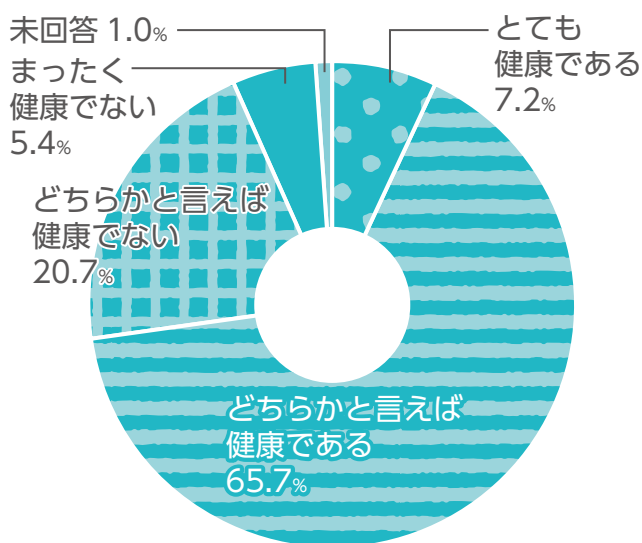
現状

- ・令和元年10月1日現在、南区の高齢化率は29.7%と市内で最も高く、今後も上昇が予想されます。
- ・地域で活動する団体が、南区各所で運動や体操などの介護予防の取り組みを行っています。
- ・令和元年12月現在、南区の共生型サロン及び高齢者サロンは111箇所あり、高齢者の生きがいきづくりや仲間づくりに大きく貢献しています。また、様々な分野の地域団体が地域の高齢者のつながりの場となっています。
- ・人口減少社会を迎えた南区では、地域の担い手の減少が懸念されます。
- ・南区の介護予防の取り組みや、生きがいきづくり・仲間づくりの機会について高齢者に十分知られていません。

課題

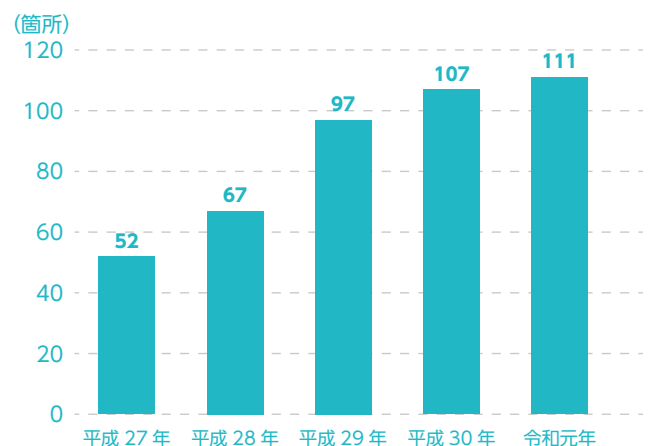
- ・高齢者がいつまでも健康で、自立した生活を送るためには、自発的・継続的に介護予防に取り組む必要があります。
- ・高齢者が生きがいや役割を持ちながら、地域で暮らすことができるよう、社会参加につながる機会を増やす必要があります。
- ・高齢者もその知識や経験を生かして、地域の担い手として活躍することが求められています。
- ・介護予防や生きがいきづくりに関する情報など、必要とする情報を必要な人に伝えていくことが重要です。

図 4.6 自分が健康だと思う高齢者の割合



出典) 令和元年度南区区民アンケート

図 4.7 南区内の高齢者サロン等の推移



共生型サロン及び高齢者サロンの数
出典) 南区社会福祉協議会作成

第2 だれもが健康に暮らせるまち

施策 5

障害や認知症への理解を深め、 地域における支え合いを支援します

施策の展開

福祉のこころの 醸成

障害や認知症に対する正しい知識や理解を深め、誰もが支え合うことができる「福祉のこころ」を育むために、地域や社会に対し学習機会の提供を進めます。また、障害のある人もない人も参加できるふれあいの場を通じて相互理解を促進します。

また、障害者の活躍の機会を充実させ、障害者一人ひとりが社会とのつながりを実感できるよう支援します。

地域共生社会の 実現

地域包括ケアの理念を普遍化し、高齢者や認知症の人だけでなく、障害者など支援を必要とする人とその家族が地域から孤立しないよう、地域における支え合いの仕組みづくりや誰もが参加できるつながりの場づくりを進めます。

幅広い世代が地域の担い手として活躍できるよう、誰もが気軽に参加できるボランティア活動を支援します。

区民・事業者・行政などが地域の特性や資源を共有し、高齢者や障害者を取り巻く地域課題の解決に向けた連携強化を進めます。

	成果指標	現状値	目標値（令和5年度）
1	地域で障害者との交流やふれあいがある区民の割合	14.5%	20%
2	授産製品を購入したことがある区民の割合	45.2%	50%
3	認知症サポーター養成講座受講者数（累計）	8,571人 （平成30年度末）	13,000人





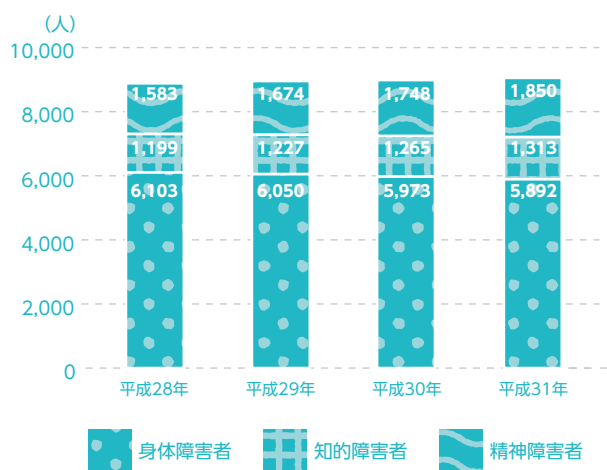
現状

- ・平成 28 年（2016 年）に、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が、平成 31 年（2019 年）4 月に名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例が施行されました。
- ・南区の障害の手帳の所持者数は、平成 31 年 3 月 31 日現在、身体障害 5,892 人、知的障害 1,313 人、精神障害 1,850 人と、人口に占める割合は市内で最も高くなっています。
- ・南区の介護保険要支援・要介護者割合は 20.5%（市内 3 番目）、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の割合は 14.8%（市内 2 番目）となっています。
- ・認知症高齢者の数が令和 7 年には、平成 24 年に比べて 51.4%増加すると予測されています。

課題

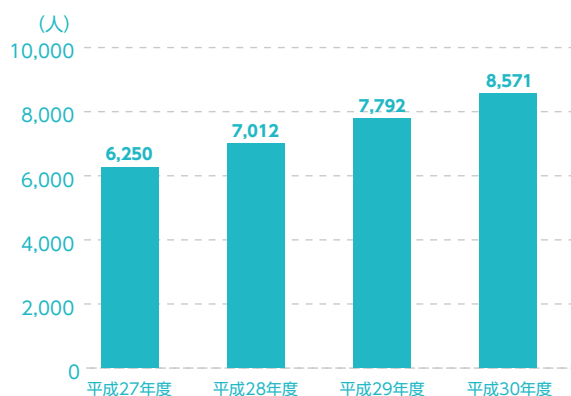
- ・誰もが支え合うことができるよう、認知症や障害への理解を深める必要があります。
- ・障害者や認知症の人、要介護者やひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人とその家族が孤立することなく、その人らしい生活を送ることができるような地域としていくことが求められています。
- ・地域の見守りや支え合いを進めるためには、幅広い世代が地域の担い手として活躍することが求められています。
- ・高齢者や障害者を取り巻く課題は地域によって多様であり、その課題の解決のためには、様々な主体が参画し情報共有を進めることが求められています。

図 4.8 南区障害の手帳の所持者数の推移



出典）南区作成

図 4.9 認知症サポーター養成講座受講者数の推移



出典）南区社会福祉協議会作成

第2 だれもが健康に暮らせるまち

施策 6

生涯にわたる学びやスポーツを通した生きがいづくりを支援します

施策の展開

生涯学習の場づくり

すべての区民が自由に学ぶことができるよう、生涯学習や読書に親しむ機会を提供するとともに、そこで得た知識や成果を広く地域や社会に生かすことのできる、活躍の機会や場づくりを進めます。

あわせて、南区の歴史や特色について知り、学ぶことができる機会や場、資料の充実を進めます。

スポーツを楽しむ場づくり

スポーツ大会やイベントなどの開催を通じて、運動・スポーツへの関心を高めます。

地域スポーツを支える拠点でもある日本ガイシ スポーツプラザ（名古屋市総合体育館）の運営や地域へのスポーツ指導者の派遣を通して、誰もがそれぞれの目的や体力、年齢に応じて運動・スポーツを楽しむことができる機会や場の提供を進めます。

令和 8（2026）年開催の第 20 回アジア競技大会に向けた機運を醸成し、大会をきっかけに幅広い世代のスポーツや運動への関心を高めます。

	成果指標	現状値	目標値（令和 5 年度）
1	南図書館サービスの利用者数 （入館者数と館外事業参加者数の計）	213,059 人 （平成 30 年度）	216,700 人
2	生涯学習を行っている区民の割合	28.3%	33%
3	学んだ成果を社会に生かしていると実感している区民の割合	21.0%	26%
4	週 1 回以上の頻度で運動・スポーツを実施する区民の割合	58.7%	69%



現状

- 生涯学習に関する活動をしている区民の割合は 28.3%となっています。
- 平成 30 年度の南図書館におけるサービスの利用者数（入館者数と館外事業参加者数の合計）は 213,059 人となっています。
- 18 歳以上の区民の運動・スポーツの実施率（週 1 回以上の頻度で運動・スポーツを実施している区民の割合）は、令和元年度は 58.7%となっています。
- 令和 8（2026）年に第 20 回アジア競技大会が愛知・名古屋で開催されます。

課題

- 生涯にわたり学ぶことができる機会や場を提供するとともに、学んだ知識や成果を地域活動などに生かすことができるよう、活躍できる場が求められています。
- あらゆる年代の誰もが、運動やスポーツを気軽に楽しむことができる機会や場をつくっていくことが必要です。
- 令和 8（2026）年に第 20 回アジア競技大会が開催されることを踏まえ、スポーツへの関心を高めていくことが重要です。

図 4.10 生涯学習を行っている区民の割合



出典) 令和元年度南区区民アンケート